

ろうさいの森

Vol 163 4月号



撮影：病院長 森田 明夫



院長略歴・資格
 1982年東京大学医学部卒
 脳神経外科専門医（日本、米国）
 脳卒中専門医、脳卒中外科技術指導医

趣味
 ……料理、旅行、写真、絵画、陶芸、その他

個人ホームページはこちら

(ブログもあります)



新任院長からの挨拶



病院長 森田 明夫
(もりた あきお)

皆様こんにちは、新しく当院の院長に就任しました森田明夫と申します。大学・市中病院などで40年臨床を中心に、研究、教育もしてまいりました。中でも9年間は米国で日々臨床に明け暮れる毎日でした。Mayo Clinicという米国の片田舎の街Rochesterにありながら患者満足度規模とも米国随一の病院で、その病院の標語は「The needs of the patient come first.（患者第一）」です。企画と努力で病院が光輝けることを体感しました。労災病院も決して良好な立地とは言えませんが、病院職員一同皆様と我々が「命の輝きを共有できる病院」を目指して努力しています。今後も地域に根ざした信頼できる高度で優しく着実な医療と勤労者医療・健康支援を提供してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

腹部のヘルニアについて

皆さんは『ヘルニア』と聞いてどんなことを思い浮かべますか？『ヘルニア』とは臓器や組織の一部または全部が本来あるべき正常な位置から脱出している（突き出ている）病気の総称です。脱出している部位によって鼠径ヘルニア（脱腸）、椎間板ヘルニア、脳ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアなどがあります。今回は『外科・消化器外科』で診察・治療の対象となる2種類の『ヘルニア』・・・足の付け根がポッコリ膨らむ『鼠径ヘルニア』と、お腹の手術を受けた際の傷の一部がポッコリ膨らむ『腹壁癒痕ヘルニア』のお話をします。

日常生活で気がつくきっかけ・症状

足の付け根（鼠径部）にピンポン玉くらいの大きさのポコッとした出っ張りや寝たり横になったりすると引っ込む。あるいは、外科・婦人科・泌尿器科で手術をした際の傷の一部分が出っ張ってきた、など。患者さんの中には、入浴の際に偶然膨れているのに気づいたり、立位や歩行時の違和感で気づくこともあるようです。

対応

まずは、当院の外科・消化器外科を受診してください。診断はさほど難しくありませんが、状況に応じてCT検査を行うことがあります。

放置していいか？

横になれば引っ込んでしまい、出ていても痛みがなく、日常生活に支障がない場合はそのまま経過をみることもできますが、多少でも痛みがあったり、日常生活に支障がある場合は外科外来を受診して担当医と相談してください。

*特に横になっても戻らなかつたり、戻そうとしてもなかなか戻らないような場合は”ヘルニアの嵌頓”といって緊急に対応しなければならぬことがあるので、放置せずすぐに病院にご連絡ください。

治療法

患者さんの病歴にもよりますが、当院では手術痕が小さく、体への負担の少ない腹腔鏡によるヘルニア修復術を第一選択にしています。多くの患者さんが手術を受けて2〜3日後には退院しています。

